

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック2016』にてご確認ください。

- ・ 学年暦→ p. 4～5 ・ 通信教育部カレンダー→ p. 6～11
- ・ 社会福祉士 演習・実習科目関連締切等→ p. 45～48
- ・ 精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等→ p. 49～51

5 / 7～6 / 12 の追加・変更点

● 「心理学研究法Ⅰ VTR」（新潟）スクーリング開講時間

（誤）5 / 28 12 : 30～17 : 20 → （正）5 / 28 12 : 20～17 : 10

※ 5 / 29は変更なし。

（本冊子 p. 35参照）

「平成 28 年熊本地震」による被害を受けられた方へ

このたびの地震におきまして、被災された九州地方の方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された方々が1日も早く通常の生活に戻られますことを、心より祈念いたしております。

通信教育部の教材・副教材に損傷を受けた方は、無料で再交付いたしますので、お申し出ください。その他、被災された方で配慮を希望する方は通信教育部までご相談ください。

これから通信教育部で 学ばれる皆さんへ

通信教育部副部長・教授

田中 治和

本学通信教育部、並びに通信制大学院へのご入学、おめでとうございます。2002年の通信教育部開設以来、“社会福祉原論”（国家試験科目「現代社会と福祉」）や社会福祉士養成に係わる演習・実習担当教員として、お祝いの言葉と具体的学修に向けての若干の助言を述べさせていただきます。

改めてご入学を衷心よりお慶び申し上げます。お仕事そして子育てや介護等のご家庭の諸事情、さらには諸々の人生経験を重ねながら、通信制という教育形態での大学教育、大学院教育を学ばれようとされる皆さんに、衷心より敬意を表します。

どのような具体的目標をお持ちでしょうか。社会福祉士・精神保健福祉士資格の取得、修士号の取得、あるいは著しい社会状況の変貌下にある最新の社会福祉の知識や技術の学習の場でしょうか。本学では、できる限り皆さんのそれらの要望に対応すべく教育態勢、具体的にはカリキュラムを準備しております。ですから通例、入学後は、どうぞ「しっかりと勉強してください、がんばってください」と言うところなのでしょう。

だが私は本学通信教育部での学びを、これらのみと考えておりません。

誤解がないように補足します。皆さんの“目標や志（こころざし）”を否定し揶揄しているわけではありません。私の想像をはるかに超えた状況の中での熟慮の上での入学への決断。お一人おひとりの貴重な時間と金銭を以て、運営されている本学ですから、まずは学生や院生の要望にしっかり

と対応することは言うまでもありません。申し上げたいのは、学校としての、学問をする時空としての、通信教育部での皆さんの学びの場所という観点からの私見です。私の立場から、そして（僭越ながらの想像ですが…）皆さんの立場をも、少し考えてみます。

II

前述のように、通信教育部開設時から講義等を担当しております。すでに通学制での、同じ科目のそれなりの教育経験はありましたが、通信教育部での講義等では、緊張感と言ったらよいのか、独特の張りつめた雰囲気があります。受講者の皆さんが、通学制の学生に比して年齢が高く、そしてこれに伴う社会経験・人生経験の豊かさに拠るのでしょうか、決してそれらだけではない空気があります。言葉にするのは至難ですが、受講者から『何かを問いかけている』…そんな感じです。その中で講義等を展開すると、これまでの拙いながら培ってきた自らの見解や価値観が、確実に深いところから動く、より正確には揺り動かされるのです。その時に閃くのです、これこそが（本当のあるべき姿の）学校だ、大学だと。スクーリング（講義等）が、学生と教員の相互理解とか相互輔生なんという学術的あるいは教育的な意味合いではありません。もっと情念的な……、何とも表現し難いですが。

間違いなく言えることは、もし通信教育部の講義等を担当しなければ、（通学制では）見聞できない世界ばかりでした。そして重要なことは、この世界は、私の事前の予想外の内容ばかりということです。皆さんのレポートに記述されている重い事実、スクーリングでの微妙で的確な反応、まさに問いを学んでいます。

率直なところ、評価をどうするかで悩みながらレポートの添削をしている時、緊張と不安で一杯の中、スクーリングの準備をしている時、逃げ出

したい思いが十五年目を迎えましたが、未だにあります。しかし踏み止まる理由は、唯々『何かを問われている』言葉にできないあの妙なる感じなのでしょうか。ですから今年も五月から始まる通信制大学院を含め相当数のスクーリングを八割の不安と二割の楽しみ？にしております。

III

スクーリングを受講する皆さんは、どんなお気持ちですか。

少々気持ちの乗らない方へ、次の文言をお伝えします。

『徒然草』の第百五十七段の一節に、「心は必ず事に触れて来(きた)る」があります。この節以降を意識しますと、心は必ず物事に関係して起こる。ちょっとでも、経文の一句を見ると、何となく前後の文句も目にはいってくる。それに思い当たって、俄かに多年の間違いを改めることもある。仮に今この経文をひろげなかったとしたら、これを知ることがあるのか。これはつまり、物事に触れることでの利益である。信心が少しも起こらなくても、仏前にいて数珠を取り、経文を手を持ったら、怠けていても自然に善い結果も修められる…。

この古典の教授する「心は必ず事に触れて来る」という言説は、人間の心は揺らぐものであり、不確かさであるという見識であり人間観の深さです。ご入学の皆さんが、不真面目で怠惰だというのではありません。また、しっかりと勉強しようとする気持ちを削ぐものでもありません。

ただ、がんばろうとする気持ちだけでは、残念ながら続かないのではないのでしょうか。

では、その折にいかにしたらよいのか。それは事に触れるしかないと考えています。

ご入学された皆さん、まずはスクーリングを受講してみてください。またレポートに取り組み始めてみてくださいませんか。必ず思わざる良き結

果が後から（この点をお忘れなく）追いかけてきます。

少し気持ちが萎えたら、また悩まれ時こそ、一歩だけ、否、半歩だけ前に出ませんか…スクーリングに、レポートに。

そのためにも、お身体もお大事になされてください。

心よりお待ちしております。